

第 16 回 華麗なるペルシャ絨毯の世界 展

伝統的なペルシャ絨毯を現代に甦らせた ミーリー工房・ソレマニエ工房の作品展

祇園祭の山鉾を彩るペルシャ絨毯が鹿児島に！

日本の伝統文化とつながるペルシャ絨毯の、知られざる魅力を知る！

■会期：2026 年 10 月 8 日(木)-13(火)

■時間：10 時～19 時 ※最終日は 15:00 迄

■入場料：無料

■会場：マルヤガーデンズ 4F ユナイトメントガーデン

■主催団体：株式会社 山田屋

■作品点数：約 80 点以上

■内容：ペルシャ絨毯の展示・販売



今回の展示会では、手紡ぎ・草木染・手織りという、古くから受け継がれてきた伝統技法によるペルシャ絨毯を多数ご紹介いたします。 その中でも、是非ご紹介したいことは「京都・祇園祭との意外なつながり」です！展示する「ミーリー工房」と「ソレマニエ工房」のペルシャ絨毯は、京都・祇園祭の【鷹山鉾】と【南観音山鉾】に合計 3 枚収蔵されており、毎年懸装されています。「ペルシャ絨毯が、なぜ？日本の伝統文化である祇園祭の山鉾に？」その背景には、1,000 年以上前の日本と世界とのつながり、美術品としてのペルシャ絨毯の魅力があります。「高級な敷物」というイメージだけでない、日本の伝統文化ともつながるペルシャ絨毯の知られざる魅力を、ぜひ取り上げていただければ幸いです。



本件に関するお問い合わせ先

株式会社丸屋本社 マルヤガーデンズ事業部 瀬川(えがわ) tel：099-813-8108

京都祇園祭 鷹山の復活

京都の夏を彩る祇園祭は、山鉦の染織の歴史や美しさから動く染織美術館といわれています。珍しい各国の宝物たちがたくさん釣に懸けられ、ベルシャ絨毯も昔から人々の目を楽しませてきました。二〇二二年夏、一九六六年ぶりに復活した鷹山にミリー工房とソレフィニが制作した絨毯が胴懸として掛けられました。

掛けられた絨毯は、ミリー工房よりカシュガイ族の蟹文様、ソレフィニはサファヴィー朝時代に流行した植物文様。どんな意味が込められた絨毯なのかご紹介しましょう。

ミリー工房

蟹柄絨毯 ファールス州カシユガイ族

本作の意匠は水の神アナヒタのシンボルの一つである蟹柄の連続模様。乾燥した地域に生きる人々にとって、水は命の源です。蟹柄の中心にはパルメット文様が織り込まれています。ボーダーには聖なる蓮の花が展開しています。蓮の花は千年に一度生まれる聖者の種を内包していると古代の人々は信じていました。

研究者によって文様の解析は今も続けられ、新しい解釈が生まれています。古代からの文様であればあるほど断定することは難しく、四肢文様に分類される蟹柄も、そのような文様の一つと言えるでしょう。確かなことは、古の人々が伝承してきた文様には、人々の憧れや願い、世界観が昇華しているということです。洗練された文様、茜色と藍の草木染の深さも美しい作品です。



ソレマニエ・フィニ工房

植物文様絨毯 カーシャーン

この絨毯は十六世紀のカーシャーンの宮廷工房で制作された絨毯を元に、下絵を新たに描き起しソレフィニが現代に蘇らせた古典絨毯です。絨毯全体には、聖なる蓮の花や、当時の王シャー・アッパースが繁栄のシンボルとして愛した花瓶柄とパルメット文様が織り込まれています。この様式は王の名にちなみ、シャー・アッパースイとも呼ばれます。

パルメットはメソポタミアで聖なる木とされてきたナツメヤシが文様の起源とされ、ペルシャでは子孫繁栄の柘榴と融合した文様になりました。

王の手厚い擁護により、文化芸術が開花した十六〜十七世紀サファヴィー王朝時代は、ペルシャ絨毯の黄金期でもありました。本作は当時と同じ草木や手紡ぎウールを使い、高い技術で制作された傑作です。